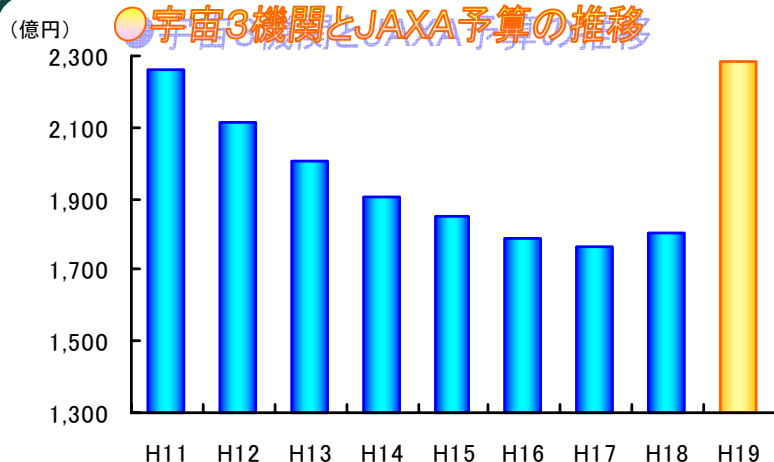


# 宇宙・航空分野の平成19年度概算要求の主要事項

平成19年度概算要求額：228,582百万円  
 (平成18年度予算額)：180,308百万円  
 ※運営費交付金中の推計額を含む

## ★基本的考え方

第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)、総合科学技術会議、宇宙開発委員会、科学技術・学術審議会において提言・指摘された事項や骨太方針2006(平成18年7月閣議決定)に対応した取組みを重視。特に、**戦略重点科学技術**と、そのうち国の持続的発展の基盤であって長期的な国家戦略を持って取り組むべき重要な技術である「**国家基幹技術**」を強化。



プロジェクトの遅延・縮小等により、**宇宙技術の信頼性低下・産業基盤の脆弱化を招来**  
**国家的課題として宇宙開発利用の推進及び航空科学技術の発展による社会への貢献に必要な予算の増額が引き続き不可欠**

## ○衛星等打上げ計画

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
情報収集衛星	月周回衛星 (SELENE)	温室効果ガス観測技術衛星 (GOSAT)	H-II/Bロケット試験機・宇宙ステーション補給機 (HTV)実証機
技術試験衛星VIII型 (ETS-VIII)	超高速インターネット衛星 (WINDS)		準天頂衛星 初号機
第22号科学衛星 SOLAR-B (太陽観測衛星)	JEMモジュール	JEMモジュール	情報収集衛星

**19年度の打上げ計画の着実な実施** **20年度以降の基幹ロケット打上げ機会の確保** **が必要**

## ★基本計画や骨太方針等上位政策

### 第3期科学技術基本計画・分野別推進戦略

国家基幹技術をはじめとする戦略重点科学技術への集中、基礎研究の推進

### イノベーション創出総合戦略

戦略重点科学技術、新技術の利用促進など出口政策の強化

### 経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006

(成長力・競争力)次世代環境航空機、宇宙の利用・産業化の推進

(安全・安心)衛星による測位・災害監視技術等

### 経済成長戦略大綱・工程表

衛星測位の研究開発、宇宙輸送システムの信頼性向上、衛星の高信頼性・高機能化、次世代環境航空機による新産業創出

## ○国家基幹技術の強化

### ◆宇宙輸送システム

我が国が必要な時に、独自に人工衛星等を打ち上げる能力を確保・維持する。

### ◆海洋地球観測探査システムに不可欠な衛星観測監視システム

人工衛星により地球規模の環境問題や大規模自然災害等の脅威に対する危機管理を自律的に行うための取組みを進める。

## ○信頼性向上への取組み

信頼性向上を不断に継続し、技術基盤の蓄積、固体ロケット等の輸送技術や衛星に係る技術の信頼性向上に関する取組みを進める。

## ○宇宙の利用・産業化に資する民間等との連携の推進

準天頂高精度測位実験技術、GXロケットプロジェクト等を関係機関と調整し推進する。

## ○新産業創出に資する航空科学技術

社会からの要請に応える航空科学技術である国産旅客機等の研究開発等を推進する。

## ○世界最高水準の宇宙科学研究

独創性の高い太陽系探査や宇宙天文観測により、世界的な知の創造を継続するため、新たな科学衛星や月探査等既存の計画を着実に推進する。

## ○国際宇宙ステーションの運用・利用等

国際パートナーとの調整を踏まえ、日本実験棟「きぼう」(JEM)のスペースシャトルによる打上げに必要な準備と効率的な運用に努める。